

技術で未来拓く

290

—産総研の挑戦—

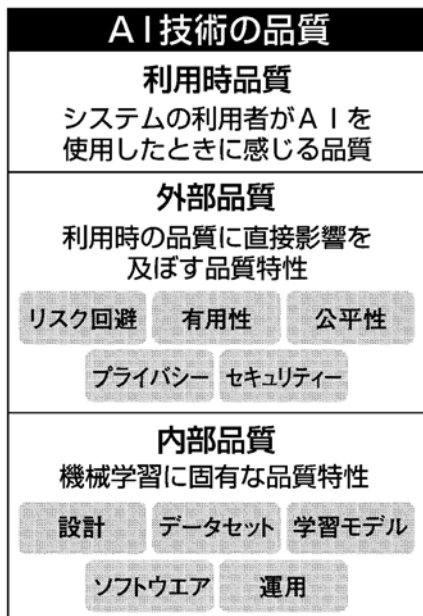
定量評価で不透明性解消

た「人工知能に関する新原則」などに基づき、AIの安全性や人権侵害、サイバー犯罪などのリスクへの対処が世界的な課題になっている。AIの普及のため、インベシジョンを阻害せずに安全性を担保できるルールが不可欠である。AI関係者の間では、データ、機械学習モデル、およびソフトウェアに関する品質や安全の保証について合意を形成する必要が

係者のニーズの多様性などによる技術的な困難が存在する。

複雑なタスク

データの品質管理は、情報システムの正確性と信頼性を確保する重要な要素であった。これまで、ISO 8000シリーズとISO/IEC 25000シリーズが、品質の概念やユースケース、測定基準、管理要件、プロセスなどを網羅するデータ管理の手法を



ISO/IEC 5259シリーズが開発中である。産業技術総合研究所（産総研）は、ISO/IEC 5259シリーズの第2部の開発を主導し

産総研 人工知能研究センター 副研究センター長

金 京淑



プロフィール

人工知能技術を用いたデータ統合・連携のための基盤技術の研究開発に従事。ISO/IEC 5259-2のプロジェクトリーダーなど、国際標準化を推進している。

信頼とリスク

人工知能（AI）の適用範囲がさまざまな分野に拡大している。一方、それに伴い個人や社会に好ましくない影響を与えるリスクも高まっている。

経済協力開発機構（OECD）が発表し

AIの品質評価・保証

機械学習モデルは、膨大なデータに基づいて、自動運転やコンテンツ生成のような複雑なタスクを実行する。データの品質はAIシステムの安全性と信頼性に強く影響する。例えば、誤字・脱字や欠損値を含む、あるいは膨大なデータ品質を確保するための国際規格の

着々と高度化

2019年度より、産総研は機械学習の品質マネジメントのガイドライン、AIシステムを対象とした品質評価とができる。また、このテストベッドは、新たなデータ品質属性を

品質評価のテストベッドは、さまざまな品質を一元的に管理する。今後、このテストベッドを包括的に評価し、AI技術の不透明性の解消を通じてビジネスへの活用を目指す。

（木曜日に掲載）